



福岡県行政書士会 各部・委員会紹介

第5回 企画部

2025年11月発行

福岡県行政書士会

広報部

福岡県行政書士会は、行政書士の業務の改善や進歩を通じて、国民の皆様のお役に立てるよう日々各業務に取り組んでいます。こうした会の運営を支えているのが、所属する行政書士たちです。本業と並行しながら「会務」を担い、会の円滑な運営や社会貢献活動の推進に力を尽くしています。

第5回は、行政書士会で様々なイベントを企画し実行している「企画部」取材してきました。企画部は行政書士業務の調査、研究、開発等を担当し、会員の資質向上や業務の効率化を図る重要な部署。今回は、企画部の活動の実情とやりがい、今後の展望を伺ってきました。

企画部

【部長】 川野 博満

【副部長】 浅尾 昇平

池田 知弘

平井 累理子

豊田 雄次

安武 優一

久野 達哉



～企画部は会の活動と会員支援に不可欠な役割を担う行政書士会の「屋台骨」～

広報部（以下「広」）：今日は企画部長の川野博満会員に話をお伺いさせていただきます。まず企画部は、福岡県行政書士会の中でどのような役割を担われている部署になるのでしょうか。

川野部長（以下「川」）：企画部は行政書士会内の広報のような役割があります。登録して3年くらいで廃業してしまう会員が多いため、一人ではないということイベントを開催して示し、その方々が相談しやすくするような役割を担っています。今回、初めての企画で令和6年度、7年度に入会された会員向けの「同期会」を令和8年度に開催しようと考えています。

広：企画部は登録年次が若い方を対象とした様々な企画を実施するというのが基本的に行っていることなんですね。

川：そうですね、登録年次が若い方や6号会員（公務員のOB）の方々と実務をやられたことがないという先生方の相談の場を設けていくというミッションもあります。

広：その他にはどのような活動をされているのでしょうか。

川：資格専門予備校に行政書士開業セミナーなどの開催を打診する活動も行っています。また、県会ホームページの「会員交流掲示板」の管理や福岡県専門職団体連絡協議会※1（以下「専団連」という）のイベントの開催サポートなどもしています。また新規登録会員向けに「事務所見学会」を企画しており、業歴の長い先生方の事務所を訪問し、様々な質問をしていただくという企画も考えております。加えて現在、「G05会」という会があり、50歳以上の方で登録が5年以下の会員を対象にした意見交換の場を設けようと考えています。

広：色々と幅広く活動されているんですね。また、企画部は専団連と繋がりも深いんですね。

川：企画部長は専団連の幹事に就くことになっています。私自身、企画部で仕事をする前、専団連に参加したことがなかったのですが、専団連に参加してよかったことは他土業の先生と交流が広がったということがあります。行政書士の登録から3年以下の方は是非、専団連のイベントに参加して欲しいです。来年2月3日にグランフェスタ博多（17:00～20:00）で新登録の会員向けの交流会があります。是非、参加しておいた方がいいと思います。2月14日には専団連ボーリング大会も予定されています。



広：新たなイベントを立案する時、どのような流れで形になっていくのでしょうか。

川：そうですね、まずは会長の助言があり、それに対してどのような形で広げていけるかということ部内で協議した上で、理事会決議をいただき実行していくというような流れです。

広：企画部は定期的に部会を開催されているのでしょうか。

川：現在、月に1回開催しており、途中報告はLINEグループを使用し、都度報告を入れてもらったり、担当者に事業計画を考えるよう依頼するとメールやLINEで回答をいただいています。部会ではそれぞれの事業活動の進捗状況の共有をお願いしています。

広：では直近で企画部が実施した事業で印象に残っている企画があれば教えてください。

川：そうですね、8月10日に豪雨災害が宗像市、福津市、古賀市、新宮町で発生しました。宗像市と福岡県行政書士会は防災協定を結んでおり福岡北支部に災害の応援依頼があり、宗像市役所に出向いて防災対応をしました。宗像市の防災協定に基づいた災害対応をしたことをきっかけに毎月第二、第四火曜日に市民相談窓口を同市役所で開催することができました。他の市町村でも災害対応をしていると窓口を開いてもらえる可能性も出てきたのかと考えています。宗像市での経験を活かして首長や議員と協力しながらの企画もやっていきたいというのがあります。

広：では、これまで活動してきた中で大変だったこと、それをどう乗り越えてきたのかという話があったらお願いします。

川：最近、大変だったことは、部内や部外で多様な意見があり、皆さんの意見がなかなか合わなかったことです。登録年数も違えばそれぞれの地域から出てきてもらっているの、各支部の意見だったり、資格登録と6号登録でも意見の乖離があったりするので、集約が大変な部分ではあります。ただ最終的には調整のうえ決断して進めています。

広：部長ならではの大変さですね。会員や市民、県民の方の声を反映して様々な企画を考えるにあたって意識していること、ここの部分は企画部として意識しているというポイントなどはありますか。

川：参加する人と事業を実行する我々が楽しいと思える企画にすることです。どの立場で参加しても楽しいと思っていただけることをモットーに考えています。過去の経験から全員が楽しいと思える企画を考えていくことにしています。



広：登録年次の若い方が企画部に関わり活動するメリット、意義があれば教えてください。また、企画部は今もメンバーを募集しておられますか。

川：そうですね、意欲的な方がいれば入ってきて欲しいですね。企画部内はざっくばらんに話せるので会務に関わって様々なイベントをしてみたいなという方は参加して欲しいです。何か新しいイベントを考えたり実行するのが好きな方にもお勧めですよ。

広：企画部に限らず、県会の会務にかかわるメリットや良さはどのように感じていますか。

川：報告書のまとめ方がわかってくると思います。例えば、許可系は様式が決まっているものが多いですが、民事系の仕事をしていると、タイムスケジュールを組んだり、このタイミングでこう処理しないといけない、ここで内容証明を送らないといけないなどのポイントがあると思いますが、それに対する報告書のまとめ方は県会の仕事に携わっていると自然と身につくと思います。

広：今後、企画部として挑戦していきたいこと、今後こういうことをやっていきたいことなど教えていただけますでしょうか。

川：市町村等連携委員会とかぶるかもしれませんが、行政との連携の場合、今、防災協定を結んでいるんですが、それをすべての市町村と包括協定を結んでいけたらと考えています。それに向けてしっかりと草の根活動をしていきたいと思っております。

広：最後に、一般の方や会員に向けてそれぞれにメッセージをお願いします。

川：行政書士は街の法律家です。難しい問題から簡単な問題まで色々な法律問題があろうかと思いますが、ぜひ行政書士に相談してみませんか。まずは電話でご相談ください。登録年次の若い方は専団連のイベントにはぜひ参加してください。そこで他土業の先生方と情報交換もできますし、もしかしたら新しく仕事をするうえでのヒントがもらえるかもしれません。



資格専門予備校でのセミナー開催の様子



KBCラジオに生出演しイベントをPR

※1 福岡県専門職団体連絡協議会

福岡県内に主要な事務所を置く10土業（弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、土地家屋調査士、不動産鑑定士、行政書士、社会保険労務士、弁理士、中小企業鑑定士）が団体レベルでの相互交流を行う場として設立されたもの

～広報部あとがき～

企画部は多岐にわたる活動を内外に向け実施しており、行政書士会内部での広報という役割を持ちつつも根幹には登録年次の若い会員にしっかりと行政書士として根付いてもらうため日々、企画の検討がなされていることがわかりました。また外への発信も積極的に行われ、行政書士会全体の活動を活性化させる重要な役割を担っていることも実感しました。企画部の活動は他の部や委員会との連携や協力が必要な場面が多く、その調整は大変ですが、その成果は意義のあるものばかりです。8月の宗像市役所での災害対応により「罹災証明書」や「災害届」の作成方法をまとめ、書き方事例を作成中とのことで今後の災害対応にも活かされることになると伺いました。企画部はまさに行政書士会の活動と会員支援に不可欠な役割を担う行政書士会の「屋台骨」であり、今後の企画を注目していきたいです。